

わが町
わが村

鹿本郡鹿央町

農業を基盤に健康な町作り



進むほ場整備とスイカハウス

鹿央町は、藩政時代、玉名郡中富手永、あるいは正院手永に属し旧村を作り、昭和三十年七月一日、千田村、米野岳村、山内村が合併し鹿央村となり、さらに昭和四十年十一月一日に町制を施行しました。熊本県の西北部、鹿本郡の中央にあることから「鹿央」となったもので、東は鹿本町、西は玉名郡菊水町、北は山鹿市に接し、南は植木町及び玉名郡玉東町に接しています。

九州自動車道が貫通し、町内に高速バスの停留所「鹿央」があり、国道三号線が植木町を経て町の東端を通り山鹿市に接続しています。又、地形は、南西部の玉東町木葉山に連なる国見山（標高三三三・八メートル）と、電々公社のマイク口中継所もある中央西部の米

野山（標高三一・八メートル）とを結ぶ線から町域は東部に広がり、東西に九キロメートル、南北七キロメートル、総面積は三〇・九三平方キロメートルです。山麓地帯の平均標高一六〇メートル、耕地の標高四〇〇〜一〇〇メートルの平坦地帯と中山間地帯から成っています。そして、山地を縫い、田畑を養って、千田川、岩原川、江田川、宮原川の四河川が菊池川に注いでいます。

人口は、六千四十三人、世帯数千五百八（五十五年国勢調査）の農業を中心とする町で、農家戸数千十一戸、耕地面積は、田六一〇ヘクタール、畑三九一ヘクタール、樹芸地一〇一ヘクタールで計一、一〇二ヘクタール、（一九八〇年

農林業センサスで、田と畑の約八〇％が基盤整備を終え、さらに基盤整備が進行中であり、農業の生産性、所得の増大が期待されます。昭和三十三年から新農山漁村建設、昭和三十四年から新市町村建設、小団地開発計画等の指定を受け、引き続き昭和三十八年から農業構造改善事業を開始し、さらに三十九年に新産都市建設計画の区域に編入し、四十四年度をもって第一次農業構造改善事業を完了しました。

このほか、農村地域工業導入促進法にもとづき四十六年に指定を受け、三社を誘致し、町の工業構造は大きく変化しました。しかし、工業の異常な発展による高度成長は、農村の労働力流出を促し、その結果、本町の人口



特産物である葉煙草の収穫

岩原古墳は学校遠足のメッカ



樹芸センター

は減少しました。そこで四十五年に過疎地域に指定され、道路交通網の整備を柱とした過疎対策事業とほ場整備、農業近代化施設を重点とした第二次農業構造改善事業、林業構造改善事業、そして山鹿・鹿本広域圏事業等により町作りをすすめています。

主幹産業の農業粗生産額に占める比率の高いものは、何といても耕種部門であり、全体の約七二％に達し、内容的には野菜三〇％、米二二％、工芸作物一五％などと

なっています。特にスイカは植木町と連なる一大産地で、バンビマークの鹿央スイカの銘柄で関西、関東方面に出荷しており、質と味では日本一との自負もっています。ユニークな事業としては、葉煙草の共同育苗施設（百三十戸）、盆栽、花木類の販売拠点として樹芸センター（三号線沿）があり、高齢者の健康保持と生きがい対策として、肉用牛を貸付けて、三ヶ年で子牛を生産し親牛の代金だけを町に返還していただくモデル事業があります。

このほか、全戸に有線放送をはりめぐらし、情報の提供を行っており、今や毎日の生活に不可欠の存在で、設備料や聴取料は一切無料となっています。

学校教育では、一中学校、三小学校の改築とプールの設置を完了し、米飯給食のためのランチルームも設置しました。

社会教育では、今年から二ヶ年連続で社会体育の県指定を受け活発な活動がなされており、家族全員がスポーツに親しめるよう努力



第9回鹿央まつりにはスイカ子供みこしも登場

しております。そして、一番重大な教育上の問題は、青少年の不良化防止をどうするかということです。

観光面では、国指定の重要文化財として素晴らしい景観を呈している岩原古墳（前方後円墳、全長一〇二メートル、後円部幅五七メートル、高さ九メートル、培塚三ヶ所）があり、熊本県は五十四年度に「風土記の丘」設置のための基礎調査を行い、菊池川流域の装飾古墳や船山古墳（菊水町）、岩

原古墳を中心に一市二町にまたがる三つの核を道路で結ぶという、他県には例を見ない建設の構想をまとめました。

この大事な文化遺産を、町民の誇りとして、すばらしい風土記の丘を作りあげてゆきたいと思えます。さて、今後の課題として町役場の改築があります。

町のシンボル、町民のサービスの本拠として、ふさわしい場所に建設したいと思っています。

国の行革の線にそって、本町の行政もその流れを受け、各方面で効率的な施策を講じなければなりません。

町民総和の上に「農業を基盤とする商工業調和のとれた町づくり」、他面「健康な町づくり」を目指し、地方の時代にふさわしく発展するため、財政事情の厳しさを深く認識し、創意工夫を重ねてゆきたいと思えます。